

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちわ。秋本番です。朝晩は冷え込みます。くれぐれもご自愛ください。

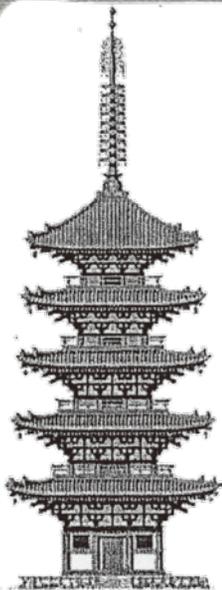
実録・覚王山日泰寺縁起をお伝えしている今年のかわら版。いよいよ**ご真骨**(本物と認定されてい仏舎利)奉安場所が名古屋に決まります。

★建仁寺

一九〇二年(明治三十五年)七月二十八日、各宗派管長会議が京都で開催されました。議論の結果、最終候補地は京都と名古屋の二ヶ所に絞られました。

名古屋が残った主因は、十万余坪の広大な用地と潤沢な資金が確保されていたことです。

京都派も**平安同志会**を結成。神楽岡、松ヶ崎(左京区)、日岡(山科区)が候補地。しかし、いずれも名古屋に比べて狭いのが難点でした。その後は京都派、名古屋派が相乱れ、怪文書や醜聞が乱れ飛び、なかなか決め手がありません。



九月十六日、痺れを切らした外務省政務局長**山座内次郎**は各宗派管長に決定督促の書簡を送りました。

そして**十月十二日**、覚王殿建設地の最終決定会議が**建仁寺**で開催されることとなりました。

建仁寺は京都市東山区にある臨済宗建仁寺派大本山です。

京都派も名古屋派も苛烈な運動を展開。今風に言えばロビー活動。要するに多数派工作です。

名古屋派は早々と建仁寺に到着する一方、京都派は建仁寺内**久院**に集まって情報収集と作戦会議。

会場周辺は、仏教には相応しくない言葉ですが(笑)殺気立っていたと伝わっています。

★三十七対一

会場は緊迫していました。決定権者は**八十四名**。三十三宗派代表と寺院数に応じて各宗派から選出された五十一名。

午前の会議では名古屋派優勢。情勢を憂慮した京都派は、記名投票で最終決定を行うことを提案。

名古屋派は記名投票では過日に禍根を残すことを危惧し、無記名投票を主張。

結局、記名投票の提案は否決。記名投票が受け入れられないことを理由



覚王殿建設地の最終決定会議が開かれた建仁寺

に**八宗派**が退席しました。

日蓮宗の**津田日厚**が、混乱回避を企図して議事日程変更の緊急動議を提出するも否決。混乱回避のために、選定を大宗派に委ねるべきとの提案等を出たものの、これも否決。これを受けてさらに**六宗派**が退席。

こうした展開の中で、大谷派を除く真宗諸派の僧侶も退席。議場は騒然とします。

京都、名古屋どちらにも組せず、そもそも出席を辞退した中立派も**五宗派**あり、結局最後まで会議に出席したのは**十四宗派**、**三十八名**。

その後、残った委員で無記名投票による採決が行われ、**三十七対一**の圧倒的多数で建設地が名古屋に決定しました。

有権者は八十四名でしたが、最初から出席辞退の中立派を除くと六十

二名。もともと、名古屋支持**三十七名**に対し、京都支持**二十五名**。名古屋派が有利な状況だったようです。嘘のような話ですが、史実です。一部の宗派から投票の無効の訴えがありました。結果が覆ることはありませんでした。

★日本大菩提会愛知協賛会

十月二十二日、名古屋では御遺形奉安置選定期同盟会を解散し、**日本大菩提会愛知協賛会**に改組。

会長に尾張徳川家当主**徳川義礼**や愛知県知事**深野一三**が推されましたがいずれも辞退。会長不在のまま、**吉田禄在**、**小栗富治郎**、**服部小十郎**の副会長三名体制で発足しました。

十一月五日、各宗派管長会議が開催され、**十一月十五日**に仏舎利を京都から名古屋に奉遷し、大日本菩提会も移転させることが決定しました。

辞意を表明した村田と前田に代わり、会長には仏舎利奉迎使節団の正使を務めた東本願寺の**大谷光演(句仏上人)**、副会長にやはり使節団の副使を務めた曹洞宗の**日置黙仙(後永平寺貫主)**が就任しました。

★名古屋・万松寺

さて、来月はいよいよ名古屋にご真骨が奉遷されます。、仮奉安所となったのは門前町(大須)の**万松寺**です。乞ご期待。

